

市民生活協同組合ならコープ
理事長 中野 素子 様

市民生活協同組合ならコープ	環境監査委員会
委員長 松村 佳子	(奈良教育大学名誉教授)
飯田 多恵	(組合員代表)
水川 紀子	(組合員代表)
植本 深雪	(組合員代表)
高良 光江	(ならコープ常任理事)
田村佳代子	(ならコープ理事)
藤田有紀子	(ならコープ理事)
牛谷 光子	(ならコープ理事)
三田 幸子	(ならコープ監事)
小野寺 浩	(㈱システムデザイン)

2018 年度 環境監査報告書

ならコープ環境監査規程第 6 条、第 7 条及び第 8 条に基づき、環境パフォーマンスの有効性及び今後の目指すべき活動等の提案について、独立した立場から監査を実施し、下記の通り報告いたします。

I. 監査概要

環境監査 2019 年 4 月 27 日 (土) 9:00~16:00

2018 年度ならコープ環境事業まとめの書類監査 被監査者 中野理事長、山中専務理事・他 12 名

II. 2018 年度実績の評価

1. 前回監査の結果「今後の取り組みにあたっての意見」に真摯な計画と対応が取られ、評価できます。
2. 事業で使用する電気使用量 19,475MWh に対して、太陽光発電による年間発電量実績 514MWh、再エネ発電率は 26.4%となり前年より約 2%改善され、2020 年度目標の再エネ発電率 21%目標を早期に達成されています。
3. 事業所の空調設備や店舗の冷却装置などにおけるフロンの漏洩対策が着実に進められています。
4. エネルギーの地産地消を目指した「再生可能エネルギーをつくる」活動は、下北山村小又川発電所の更新工事に着工して、地域連携の強化がすすめられています。また、ならコープでんきの電源である東吉野村つくばね発電所の見学会では、再生可能エネルギー利用への理解が広がっています。
5. 省エネ施設・設備を積極的に導入され、供給高の伸長に比較し、エネルギー使用量が総量で削減できており、エネルギー効率が良くなっています。
6. 「組合員のつどい」等を通じて、SDGs やエシカル消費に関連した持続可能な環境活動について職員や組合員に知る機会を提供できたことは良い取り組みです。
7. フードバンク奈良（拠点としてコープふれあいセンター六条）の活動支援が定着してきました。また、組合員による店頭での食材提供を呼びかけるフードドライブの活動が広がっています。

III. 今後の取り組みにあたっての意見

- 1 国連の提言する目標年度に整合し、2030 年に向けた環境活動の目標策定について、実現可能で有効な目標を早期に策定されることを期待します。
- 2 職員が業務を通じた環境への貢献や環境負荷を認識し、職員一人ひとりが組合員とコミュニケーションできるように意識の向上と働きかけの強化を期待します。ならコープ及び組合員が長年継続して取り組んでいる環境保全活動等について多くの組合員が参画できるように広く情報発信することの一層の検討・強化をしてください。
- 3 ならコープでんきの再エネ比率を更に高め、組合員への一層の普及をすすめてください。
- 4 フードバンク奈良への食材提供など食べ物を無駄なく消費するための改善活動を継続されていますが、引き続き着実に食品ロス削減を組合員と共にすすめてください。
- 5 今後、無店舗事業や宅配事業での配送車両の燃料の使用量が増大することが見込まれますので、環境負荷の少ない車両や配送方法などの研究を具体的にすすめてください。
- 6 無店舗事業でのカタログ・チラシ類の削減や、店舗事業でのプラスチック問題に対応できるリサイクル活動の継続・改善に期待します。

以上